

1. 出場に至るまで

吉見龍之介君(当時3年生)は、平成21年6月6日(土)に吹上公園相撲場で行われた鹿児島県高等学校総合体育大会の個人戦無差別級に出場した。準決勝で蘇君(樟南:当時3年)に敗れたが、三位決定戦で安田君(樟南:当時2年)に勝ち、体重わずか84kgの小兵ながら県3位となり、3人の鹿児島代表の1人となる。

なお、この後に行われた全九州高等学校体育大会にも80kg～100kg未満級及び無差別で出場し、ともにベスト8となる。

2. いざ、全国高等学校総合体育大会へ

平成21年8月1日(土)～3日(月)に京都府立体育館で行なわれた。

大会前日は、練習場で汗を流した。本校には相撲部はないため、この日の朝に合流した本校卒業生であり兄の吉見啓佑さん(高知大学,当時3年生:この年の全国学生体重別相撲75kg未満級で優勝し、翌年の今年、同大会の85kg未満級に優勝し、連年優勝を果たす)が、練習相手になってくれた。

大会初日は、まず、全選手まわしをつけ、開会式。そして、昼過ぎまで団体予選。その後いよいよ個人戦予選。2勝以上で決勝トーナメント進出!

1回戦は、池尻君(柳学園高校:兵庫)。土俵際まで押され、踏ん張ったが、押し出しで敗れ、1敗。

2回戦は、鴨崎君(鵬翔高校:宮崎)。速い攻めで、寄り切り。まず1勝。

3回戦は、高橋君(東洋大牛久高校:茨城)。取り組み前には、前述の兄啓佑さんの他にもう一人の兄さんからアドバイスを受け、決勝トーナメント進出をかけた土俵に上がる。土俵中央で両者ともにまわしを取り、しばらく動きが止まり、次の瞬間、投げられ、2敗目。惜しくも予選敗退。

通路では、涙が止まらず、なかなか立ち上がれなかった。

2. おわりに

個人戦決勝トーナメントは全試合その日にうちに行われた。ベスト8以上になると体格が大きくなる者同士の取り組みばかりで、とても見応えがあった。その後、鹿児島県の選手の応援をし、優勝者が決まるまで観戦し、会場を後にした。

今回、鹿児島県から相撲で総体に出場した選手の多くは、中学校まで奄美で学び、島外に進学した者たちであり、吉見君にとっては、高校入学前から知っている友人や中学校の同級生である。中学校まで奄美で相撲を取っていても、高校は島外へ進学する者が多い中、吉見君は、相撲部のない古仁屋高校への進学を選択した。そして、相撲を取り続けた。そこには、古仁屋から全国に行きたい、古仁屋からでも全国に行けるという思いがあった。そして、高校生活最後の年。日頃の稽古で鍛え、念願の総体への出場を果たした。

卒業後は奄美を離れ、九州情報大学に進学し、相撲を続けている。最近の成績では、今年7月に行われた第35回西日本学生相撲個人体重別選手権大会の85kg未満級で第3位がある。

今後も、彼の活躍と更なる成長を期待したい。

